



宮司プレス第五十九号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十三年 四月 十二日

宮司の柴田です。

やわらかい春の陽ざしが、厳しい寒さが続いただけ、よりいっそう肌心地よく感じる昨今であります。境内の桜は、ゆるやかな風に花びらを散らせはじめ、盛りを過ぎ、春も半(なか)ばを迎えています。

「去年(こぞ)盛(も)りあれば今年(ことし)は花なかるべき事を知るべし」これは、先月号にも記述しましたが、「能楽(のうがく)」の基礎を確立した世阿弥(ぜあみ)が、父である観阿弥(かんあみ)の遺訓(いくん)をもとに記した、日本最古の能楽理論書ともいえるべき風姿花伝(ふうしはでん)、「その第七 別紙口伝(べっしくでん)」に書かれています。時の運とは恐るべきもので、昨年花が盛りと咲けば、今年は昨年と同じように花が咲かない事を悟るべきだと説いているのです。

もともと花見は、秋の収穫を占つものでした。「桜(さくら)の(の)さ(は)は、稲(いね)の(の)霊(たま) (みたま)の事で、(の)く(は)は神(かみ)の座(ざ) (たま)を意味していたそうです。したがって、(さ

くら)は、五穀(ごこく)の神様が宿る木、

神様の住まわれる木と考えられました。桜の花の咲き具合で、その年の稲の豊凶(ほうきょう)を占ったのが、花見の始まりだという説もあります。古代の人々は、桜の花を見て、その年の豊作を祈ったわけですが、大自然の恵みに感謝を捧げ、共存してきた古代の人々の知恵なのですね。そして、台風や早(ひでり)の災害がない事を祈りながら、つらく長い農作業が始まる前の、ひとときの「やすらぎ」「楽しみ」も「花見」であったはずですよ。記録的な豪雪をもたらしたこの冬の寒さのせいか、あの未曾有(みぞう)の東日本大震災より早くも一月が経ちましたが、その大震災に気兼ねをしたかのような遅い開花となりました。

東日本大震災は、「神も仏もない」、「戦禍(せんか)にも劣らない天災」、「一瞬にして歴史を作り、一瞬にして歴史を消した災害」筆舌(ひつぜつ)に尽しがたい大災害であります。しかも、「大震災」と「大津波」そして、「原発事故」と三つがING(アイ・

エヌ・ジー)、同時進行である事が、災害の深刻さを浮(う)き彫(ぼ)りにしています。

しきしまの 大和心の ををしきは

ことあるときにぞ あらはれにける

日露戦争の前に、明治天皇様がお詠(よ)みなられた御製(ぎよせい)と読み、天皇陛下のお詠みになられた和歌、ちなみに皇后陛下のお詠みになられた和歌は御歌(みうた)といえます)です。

いかならむ ことにあひても

たゆまぬは わがしきしまの 大和魂(たまとま)ともお詠みになっていらっしやいます。

敷島(しきしま)と読み日本の国(くに)ことです、日本人の麗しい心である大和心、大いなる和(やわ)らぎや相互扶助(さあひたすけ)という「助け合い、思いやり」の心の結集された大きな力は、困難に立たされた時に発揮され、どのような試練(しれん)に遭(あ)っても屈(まが)まないのが、その麗しい心、大和魂であると詠まれています。日本国民であるならば、日本人の心や誇りをもつて奮闘努力(ふんとうりょく)するに違(ちが)いない、そうすべきであるとお示しになっていらっしやいます。三月十六日の天皇陛下のビデオメッセージの励ましのお言葉にもつながっていると思えますね。今回の災害は、まさしく国難であり、国民(こぞ)にとって復興(ふっこう)に向けてあらゆる努力を惜しんではいられないと思います。私は、

講演活動や教誨(きょうかい)活動で、「神様はその人が越えられない苦しみは、けつして、お与えにならない、きつと、超えられる」とお話をします。きつと、越えられる事を信じる、まさに日本人の鋭心(とこころ)と読みます、勇気や強い心のことです、「大和心のをしさ」を發揮すべき時なのです。

冒頭の、「去年(こぞ)盛(も)りあれば今年(こぞ)は花なかるべき事を知るべし」とは、私達の生活や営みにも、よい時があれば必ず悪い時もあるということ。これは人の力や智恵の及ばない、人智(じんち)を超えたものです。その事を心得て、自然の道理として宿命として全てを受け入れて強く生きる、前向きに努力する事を怠らない事の大切さを説いていると思います。

休眠打破(きゅうみんだは)は、いつたい何の事でしょう、おわかりになりますか。

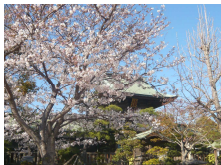
実は、桜の開花のメカニズムの事でありま。桜の花は、冬の低温がとても重要な要素でありまして、寒さという刺激が、その桜の花を長い眠りから目覚めさせるのであります。イギリスの詩人「パーシー・シユリ」は、「冬来たりなば春遠からじ」という詩を残しています。東日本大震災という厳しい逆境、「冬きたりなば、冬に立たされてはいますが、辛抱して耐え抜けば、やがて、散

つた桜も再び盛りと咲く、「春遠からじ」、幸福が訪れるという、希望を持ちたいものです。ね。津波は、世界共通語であります。今回の大災害を見事に復興して、「大和心」「思いやり」「大復興」そして、人々の「絆」が世界共通語になるようにしたいものです。そのためには、「自分が何が出来るかを考える」として、「痛みを分け合つ、心を寄せる」という二本柱を忘れずに、「休眠打破」を成し遂げましょう。皆様の御多幸を祈ります。

月次祭 * 四月一日、十五日
竹の子島金刀比羅宮例祭、東日本大震災復興祈願祭 * 四月九日、十日
六連島、荒神社例祭、東日本大震災復興祈願祭 * 四月九日
舟島祭 * 四月十六日
舟島神社例祭、佐々木小次郎慰霊祭
朝粥会 * 四月二十一日
戦没者慰霊祭 * 四月二十四日
昭和祭 * 四月二十九日
四月の宮司の行事会議等
当宮関係団体

三月、四月の祭典行事報告

月次祭 * 三月一日、十五日
福浦金刀比羅宮月次祭 * 三月十日
南風泊恵比須神社例祭 * 三月十五日
神道会第四十回祖霊祭 * 三月二十日
朝粥会 * 三月二十一日
東日本大震災復興祈願祭 * 三月二十一日
境内の桜 * 四月上旬(左、上の写真)



勸学祭(かんがくさい) * 四月三日

(右、下の写真)

四月の祭典行事予定

敬神婦人会総会 * 四月十七日
責任役員、常任総代会 * 四月二十九日
山口県神社庁、同下関支部関係
山口県神社庁常任委員会 * 四月四日
下関支部三役会 * 四月十四日
下関支部幹事会 * 四月十八日
下関支部聞く会 * 四月二十七日
山口県神社総代会研修会 * 四月二十八日
西ロータリークラブ 例会
* 四月六日、二十日、二十七日
講演活動
敬神婦人会総会 * 四月十七日
迫町自治会役員会、組合長会議
* 四月二十日、二十二日